

中国語と日本語「第三者の受身文」の対照研究：述語動詞と結果的影響について

陳, 陸琴
九州大学大学院

<https://doi.org/10.15017/1654569>

出版情報：九州大学言語学論集. 36, pp.29-57, 2016. 九州大学大学院人文科学研究院言語学研究室
バージョン：
権利関係：



中国語と日本語「第三者の受身文」の対照研究： 述語動詞と結果的影響について

陳 陸琴

(九州大学大学院)

luqin.chen1988@gmail.com

キーワード：中国語、日本語、「第三者の受身文」、結果的影響、述語動詞

1. はじめに

日本語の受身文には、次の(1)のような「第三者の受身文」が存在している。

(1) 私は夜中に子供に泣かれた¹。 [中島 2007: 90]

(1)のような「第三者の受身文」は意味上、受動者が他人の出来事から間接的に影響を受けることを表し、構文上、受動者はもとの動作メンバーではなく、新たに加わった第三者である。

(1)の述部で表されているのは「子供が泣く」という出来事である。述語動詞「泣く」の動作メンバーは「子供」という経験者しかない。従って、受動者の「私」は直接的に述語動詞「泣く」の影響を受けず、間接的に出来事「子供が泣く」の影響を受けるので、意味上、「第三者の受身文」であると言える。

受身文(1)に対応するもとの文は次の(2)であり、構文上、影響を受けた第三者「私」はもとの文(2)に対し、新たに加わった構成要素であるので、受身文(1)は「第三者の受身文」と見なせる。

(2) 夜中に子供が泣いた。

¹ (1)、(2)は中島(2007: 87~93)によるものである。

一般的に中国語の受身文には、日本語の(1)に対応する(3)のような受身文が存在しないと言われている。

- (3) *夜里 我 被 婴儿 哭 了²。
yeli wo bei yiner ku le
夜中 私 BEI 赤ん坊 泣く asp
私は夜中に赤ん坊に泣かれた。

しかしながら、先行研究の楊（1992）では、次の(4)と(5)を挙げながら、中国語には自動詞からなる「第三者の受身文」が存在すると指摘している。

- (4) 被 她 这么 一 哭，我 不 知道 怎么办
bei ta zheme yi ku, wo bu zhidao zenmeban
BEI 彼女 こんなに と 泣く，私 NEG わかる どうしたら

才好 了。

caihao le

いいか asp

彼女に泣かれてしまうと、どうしたらいいか分からなくなった。

[楊 1992: 333]

- (5) 被 他 这么 一 坐，我 什么 都 看不见 了。
bei ta zheme yi zuo, wo shenme dou kanbujian le
BEI 彼 こんなに と 座る 私 何 も 見えない asp
彼にこうして座られると、何も見えなくなってしまった。

[楊 1992: 333]

例えば、(4)においては述部で表されているのは“她这么一哭”（彼女がこうして泣いた）という出来事である。(4)では受動者の“我”（私）が述語動詞“哭”（泣く）の動作メンバーではないため、直接的に動詞“哭”（泣く）の影響を受けず、間接的に出来事“她这么一哭”（彼女がこうして泣いた）の影響を被っている。また、構文上、(4)の受身文に対応するもとの文(6)に比べ、影響を受けた第三者“我”（私）は新たに加わった構成要素で

² 本稿では例文の文頭に用いられる記号「*」は「非文」を表す。

ある。

- (6) 她 哭 了。
ta ku le
彼女 泣く asp
彼女が泣いた。

王 (1985)でも次のような例文を通じて、中国語にも日本語のような「第三者の受身文」が存在すると述べている。

- (7) 他 的 恐 惧 就 由 被 人 夺 了 “头功”
ta de kongju jiuyou bei ren duo le tougong
彼 の 不安 ~のは~からだ BEI 人 取る asp 功績

一 转 而 为 身 家 性 命 之 危 了。
yizhuanerwei shenjia xingming zhi wei le
さ ら に 財 産 命 の 危 険 asp
彼が不安でびくびくするのは、「功績」を取られ、さらに自分の
命と財産も失う可能性があるからだ。 [王 1985: 30]

- (8) 官 军 追 杀 一 阵 , 因 为 地 形 复 杂 ,
guanjun zhuisha yizhen , yinwei dixing fuza,
官 軍 追 い か け る 少 し か ら だ 地 形 複 雑

终 给 郝 摇 旗 逃 脱 了 。
zhong gei haoyaoqi taotuo le
つ い に GEI 郝 摇 旗 逃 げ る asp
官 軍 は 追 い か け た が 、 地 理 が 複 雑 な の で 、 つ い に 郝 摇 旗 に 逃 げ ら
れ て し ま っ た 。 [王 1985: 31]

本稿では中国語には「第三者の受身文」が存在すると主張する。では、中国語の「第三者の受身文」には具体的にどのような特徴があるのか。また、日本語の「第三者の受身文」とどう違うのか。これらの問題について考察する必要があると思われる。

しかしながら、中国語の「第三者の受身文」に関する専門研究はわずかである。例えば、路(2013)は、インターネットで用いられる「被就业(就職したことにさせられた)」のタイプを例として、中国語の自動詞述語受身表現について考察を行った。

また、中国語と日本語「第三者の受身文」についての対照研究も非常に少ない。例えば、王(1985)では日本語と中国語の対照研究を通じて、「第三者の受身文」の基本文型について考察を行った。日本語の「第三者の受身文」は「N1 ハ・N2 ニ・N3 ヲ・V(ラ)レル」と「N1 ハ・N2 ニ・V(ラ)レル」という基本文型で表されるのに対し、中国語の「第三者の受身文」は「N1 介詞・N2・V・(R)・N3」と「N1 介詞・N3・V(R)」という基本文型で表される³。しかし、「第三者の受身文」に用いられる述語動詞や結果的影響⁴などの特徴については論じられていない。中島(2007)では日本語と比べながら、(9)のような“得”補語が用いられる「第三者の受身文」に関して検討を行った。「中国語においても、自動詞の受身が成立する場合がある。“被”によって導かれる補文の事態が原因を表し、結果を表す“得”補語が後接する場合である」(2007:99)と述べている。しかしながら、中国語におけるほかの「第三者の受身文」については一切触れていない。

- (9) 夜里 我 被 婴儿 哭得 睡不着觉。
yeli wo bei yiner kude shuibuzhaojiao
夜 私 BEI 赤ん坊 泣く DE 眠れない
私は夜中に赤ん坊に泣かれて、眠れなかった。

そのため、中国語の「第三者の受身文」及び中国語と日本語の「第三者の受身文」への対照研究はまだ不十分であると言っても過言ではない。

従って、本稿の目的は中国語と日本語の対照研究を通じて、述語動詞と結果的影響という二つの観点から、両言語における「第三者の受身文」の共通点と相違点を明らかにすることである。

³ N1=受身文の主語(間接影響者)、N2=動作主、N3=目的語、V=動詞、R=補語

⁴ 「第三者の受身文」の場合、受動者は、その事態に直接関わっていないため、間接的にでも、その事態から影響を受けている必要がある。これを本稿では「結果的影響」と呼ぶことにする。

次節では「第三者の受身文」について分類を行う。3 節では日本語の「第三者の受身文」について、4 節では中国語の「第三者の受身文」についての考察を行う。5 節では結論をまとめる。

2. 「第三者の受身文」の分類

日本語の「第三者の受身文」は、述語動詞の自他性により「第三者の自動詞受身文」と「第三者の他動詞受身文」に分けられる。「第三者の自動詞受身文」とは、自動詞が述語動詞として用いられる「第三者の受身文」を指している。それに対し、「第三者の他動詞受身文」とは、他動詞が述語動詞として用いられる「第三者の受身文」を指している。

中国語の「第三者の受身文」について、本稿では受身の意味を表す“被(bei)”“叫(jiao)”“给(gei)”“让(rang)”をキーワードとし、中日対訳コーパス⁵の中国語原文と茅盾文学賞⁶を受賞した作品を対象として調査を行った⁷。調査の結果は次の(10)にまとめられる。

⁵ 中日対訳コーパスとは、2002 年に北京日本学研究中心によって造られたコーパスである。日本の文学作品や評論、憲法など日本語原文資料が 369 万字含まれ、中国語の文学作品や評論など中国語原文の資料が 529 万字含まれる。

⁶ 茅盾は中国の小説家・評論家である。茅盾の死後、1982 年に茅盾文学賞が設立された。中国では茅盾文学賞は日本の芥川龍之介賞のような存在である。

⁷ 呂(1999)によると、口語では受身の意味を表すのに“被”よりも“让(rang)”, “叫(jiao)”の方が広く用いられる。介詞“让(rang)”, “叫(jiao)”を含む受動文の構造は“被”を用いた受動文と基本的に同じであるが、介詞“让(rang)”, “叫(jiao)”はその目的語を欠くことはできない。介詞“给 gei”の後には目的語があってもなくてもよいということがわかった。しかし、本稿では、結果的影響と述語動詞しか考察しないので、介詞“让(rang)”, “叫(jiao)”“被(bei)”と“给(gei)”の後に目的語があるかどうかについて細かく検討せず、すべての受身文を介詞の目的語が省略されない文として取り扱うこととする。

(10)中国語「第三者の受身文」の数

動詞の種類	被	叫	给	让 ⁸	合計
自動詞	20	8	7	23	58
他動詞	3	0	0	19	22
四字熟語	1	0	0	1	2
合計	24	8	7	43	82

(10)が示しているように、中国語において「第三者の受身文」は間違い

⁸ 劉月華ら(2010)によると、“叫(jiao)” “让(rang)” は使役文にも使われる。しかし、使役文は兼語文(兼語文とは、1つの動目フレーズと1つの主述フレーズが一部重なりあった形で述語ができていものである。)であり、使役文において“叫(jiao)” “让(rang)” は動詞として使われる。それに対し、受身文は兼語文ではなく、受身文において“叫(jiao)” “让(rang)” は介詞として使われているということがわかる。また、朱(1999)では、“叫(jiao)” “让(rang)” の使役文は指示、許可と放任を表し、“叫(jiao)” “让(rang)” の使役文における主語は指示、許可と放任という動作の動作主であるのに対し、“叫(jiao)” “让(rang)” の使役文における主語は動作主ではなく、受動者/対象物であると述べている。例えば、

(i) 杯子 叫/让 他 打破 了。
 Beizi jiao/rang ta dapo le
 グラス JIAO/RANG 彼 割る asp
 グラスを彼によって割られた。 [朱 1999: 202]

(ii) 你 让 我 再 想想。
 Ni rang wo zai xiangxiang
 君 RANG 私 もう一度 考えてみる
 もう一度考えさせてください。 [朱 1999: 204]

受身文(i)では、“叫(jiao)” “让(rang)” は介詞として使われ、主語の“杯子”は動作“打破(割る)”の対象物であるが、使役文(ii)では、“叫(jiao)” “让(rang)” は動詞として使われ、主語の“你(君)”は“叫(jiao)” “让(rang)” が表す動作の動作主である。

本稿では“叫(jiao)” “让(rang)” によって作られた受身文しか考察対象として取り扱わないことにする。

なく存在しており、しかも数も少なくない。そのうち、最も多いのは次の(11)のような自動詞から作られる「第三者の受身文」であり、その次は(12)のような他動詞から作られる「第三者の受身文」である。(13)のような「四字熟語」が述語部分として用いられる「第三者の受身文」も存在するが、数はきわめて少なく、例外的と言ってよい。

(11) 自動詞による「第三者の受身文」

柳原 笑道：“ 这样 好吃力。我 来 替 你，
liuyuan xiaodao zheyang haochili wo lai ti ni
柳原 笑って言う それなら 大変 私 来る 替わる 君

打 罢 你 来 替 我 打。”流苏 果然 留心
da ba ni lai ti wo da liusu guoran liuxin
叩く 語気 君 来る 替わる 私 叩く 流蘇 はたして 気を付ける

着，照 他 臂 上 打去， 叫道：“ 哎呀，
zhe, zhao ta bi shang daqu jiaodao aiya
asp 狙いを定める 彼 腕 上 叩く 叫ぶ あら

让 它 跑 了！”

Rang ta pao le
RANG こいつ 逃げる asp

柳原が笑って、「それじゃ、たいへんだ。僕が叩いてあげますから、あなたは僕の背中を叩いてください」。流蘇は言われたとおり気をつけていて、狙いを定めて彼の腕を叩いた。が、すぐに叫ぶ。「あら、逃げられちゃった!」 [中日対訳コーパス：『倾城之恋』]

(12) 他動詞による「第三者の受身文」

我家 主人 感到 十分 为难， 如果 拟旨准行，
wojia zhuren gandao shifen weinan, ruguo nizhizhunxing
うち 主人 感じる 非常に 困る もし 指示に従う

则 让 高拱 抢 了 头功，
ze rang gaogong qiang le tougong,
それなら RANG 高拱 取る asp 功績

从此 事情 就 不 好办。
 congci shiqing jiu bu haoban
 これから こと するとすぐ NEG やりやすい
 うちの主人は非常に困っている。もし指示に従えば、高拱に功績
 をとられて、これから困る。 [茅盾文学賞⁹:『张居正(上)』]

(13) 四字熟語による「第三者の受身文」¹⁰

自从 被 江古碑 和 朱预道 引蛇出洞 又 被
 zicong bei jianggubei he zhuyudao yinshechudong you bei
 から BEI 江古碑 と 朱预道 四字熟語 また BEI

造反派 抓住 之后, 梁必达 先后 被 批斗 了
 zaofanpai zhuazhu zhihou liangbida xianhou bei pidou le
 造反派 捕まえる その後 梁必达 相次いで BEI 批判 asp

十二 次, 要不是 中央 有 人
 shier ci yaobushi zhongyang you ren
 十二 回 そうではないと 中央政府 いる 人

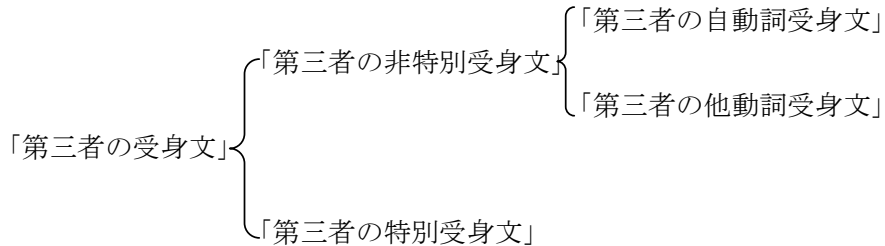
出面 说话, 肯定是 没 命 了。
 chumian shuohua kendingshi mei ming le
 顔を出す 話す きっと ない 命 asp
 江古碑と朱予道に引き出され、また造反派に捕まえられてから、
 梁必達は十二回も批判された。もし情に訴えて中央政府に許しを
 請ってくれた人がいなかったら、命はきっと失われてしまっただ
 ろう。 [茅盾文学賞:『历史的天空』]

以上のことから、以下の(14)に示すように、述語部分により中国語の「第
 三者の受身文」を細かく分類することができる。

⁹ 本稿では茅盾文学賞を受賞した作品を「茅盾文学賞」に略称する。

¹⁰ 集めた実例が二つしかないので、以下は考察対象として取り扱わないことにす
 る。

(14)中国語の「第三者の受身文」の分類



本稿において、中国語の「第三者の受身文」を、まず述語部分の特徴(「四字熟語」であるか自他動詞であるか)により、「第三者の特別受身文」¹¹と「第三者の非特別受身文」に大別する。「四字熟語」が述語部分として用いられる「第三者の受身文」を「第三者の特別受身文」(13)と呼び、自他動詞が述語部分として用いられる「第三者の受身文」を「第三者の非特別受身文」と呼ぶ。

また、日本語と同じように、中国語においても自動詞が述語動詞として用いられる「第三者の受身文」を「第三者の自動詞受身文」(11)、他動詞が述語動詞として用いられる「第三者の受身文」を「第三者の他動詞受身文」(12)と規定する。

3. 日本語の「第三者の受身文」

3.1. 結果的影響

コーパスから集めた日本語の「第三者の受身文」から見れば、いずれの受身文にも結果的影響が存在している。しかし、結果的影響が明示される場合もあり、明示されない場合もある。

(15)～(18)の文字囲いの部分は、「第三者の受身文」の結果的影響を表している。

- (15) 妥当な線を越して高値を吹き掛けられても、施主に咎められる恐れがないから、いたって鷹揚になり当然に不正も生じ易い。

[中日対訳コーパス: 『百言百話』]

- (16) 病院内で騒ぎ立てられては困るという理由からか、面会は14歳

¹¹ 本稿では「第三者の特別受身文」を研究対象としない。

以上からしか認められていなかった。

[中日対訳コーパス: 『五体不満足』]

- (17) 曾根二郎がリュックの紐を解きかかると、神谷は、それを拵げられては大変と思ったのか、「いや、結構です。いいんです。

[中日対訳コーパス: 『あした来る人』]

- (18) 「ええ、大宮に行かれると、僕はもう話相手がなくなります」

[中日対訳コーパス: 『友情』]

このように、日本語では、結果的影響が明示される場合、主に次の二つの構文形式が取られている。

- (19) a. V (ら) れ+ても／ては+結果的影響を表す節
b. V (ら) れ (る) +たら／と+結果的影響を表す節

例えば、(15)～(17)のような受身文は形式(19a)であり、(18)は形式(19b)である。どちらの場合も、結果的影響を表す部分が文の主節となっている。日本語では、このように結果的影響が明示される場合もあれば、

(20a)のように明示されない場合もある。

- (20) a. 私は子供に騒がれた。 [中島 2007: 93]
b. 私は子供に騒がれて、頭が痛くなった。 [中島 2007: 93]

3.2. 「第三者の受身文」の述語動詞

本節では主に述語動詞の意味分類の観点から、日本語における「第三者の受身文」の述語動詞について考察を試みる。自動詞が最も多いのは移動動作を表す移動動詞であり、他動詞が最も多いのは作用¹²の意味を表す他動詞である。

¹² 凌(2005)では「人または物事が他の人または物事に働きかけて、かつそれらを変化させる意味を表わす動詞を作用の意味を表わす動詞とする」と述べている。

3.2.1. 自動詞

次の(21)は中日対訳コーパスから収集した日本語「第三者の受身文」の述語自動詞の使用状況を示している。(21)からわかるように、自動詞「吹く」が最も多く 16 例、ついで自動詞「怒る」9 例、自動詞「逃げる」7 例の順である。

(21)日本語「第三者の受身文」の自動詞の使用状況

		吹く	怒る	逃げる	死ぬ	来る	行く	なる	祟る	やってくる	登る、先立つ、騒ぐ、騒ぎ立てる、降る、飽く、去る、いる、輦蹙する	合計
総合語数	延べ語数	16	9	7	6	5	4	3	2	2	それぞれ 1	63
異なり語数	異なり語数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	18

凌（2005）は自動詞の意味特徴により、これらの自動詞を大きく「動作の意味を表す自動詞」、「現象の意味を表す自動詞」、「態度・感情の意味を表す自動詞」という三つの類に分けている。本稿では凌(2005)の分類に従い、18 例（異なり語数）の自動詞を次のように分類する。

I 動作を表す自動詞

- ①一般的な動作を表す自動詞：騒ぐ、騒ぎ立てる、祟る
- ②移動動作を表す自動詞：逃げる、来る、行く、やって来る、登る、去る

II 現象を表す自動詞

- ①存在を表す自動詞：いる
- ②自然現象を表す自動詞：降る、吹く
- ③生理現象を表す自動詞：死ぬ、先立つ
- ④状態変化を表す自動詞：なる

III 態度・感情を表す自動詞：怒る、飽く、輦蹙する

さらに、

(22)を見ると、移動を表す移動動詞（逃げる、来る、行く、登る、去る、やって来る）は自動詞全体の半分には達していないものの、31.75%に上っている。次いで、自然現象を表す自動詞も少なくなく、26.98%に達している。つまり、日本語の「第三者の受身文」になれる自動詞の中で最も大きな比率を占めるのは移動動作の意味を表す自動詞である。

(22)日本語「第三者の受身文」における自動詞の比率

自動詞	例数	比率
移動動作の意味を表す自動詞 （逃げる、来る、行く、去る、登る、やって来る）	20	31.75%
自然現象を表す自動詞 （吹く、降る）	17	26.98%
態度・感情を表す自動詞 （怒る、飽く、輦蹙する）	11	17.46%
生理現象を表す自動詞 （死ぬ、先立つ）	7	11.11%
一般的な動作を表す自動詞 （騒ぐ、騒ぎ立てる、祟る）	4	6.35%
状態変化を表す自動詞 （なる）	3	4.76%
存在を表す自動詞 （いる）	1	1.59%

3.2.2. 他動詞

凌(2005)は日本語には、「第三者の受身文」になれる他動詞が数多く存在し、それらは、動詞の意味特徴により、「第三者の受身文」になれる他動詞を「作用の意味を表す他動詞」、「生産の意味を表す他動詞」、「位置変化の意味を表す他動詞」、「言語活動の意味を表す他動詞」、「態度・感情の意味を表す他動詞」と「思考の意味を表す他動詞」の六つの種類に細かく分かれるが、そのうち、最も多いのは「作用の意味を表す他動詞」であると指摘している。

本稿では、中日対訳コーパスから他動詞からなる「第三者の受身文」を8例集めた。これらの受身文に用いられる他動詞はそれぞれ「広げる」、「持つ」、「匿す」、「入れる」、「かける」、「吹き掛ける」、「取る」、「やる」である。日本語の「第三者の受身文」の自動詞数に比べ、収集した他動詞数ははるかに少ないと言えよう。また、本節でも凌(2005)の分類に従い、8例の他動詞を次のように分類する。

I 作用を表す他動詞：広げる、持つ、匿す、かける、やる、
取る、吹き掛ける

II 位置変化を表す他動詞：入れる

以上の分類によると、日本語の「第三者の受身文」になれる他動詞は「作用の意味を表す他動詞」が7例と最も多い。

4. 中国語の「第三者の受身文」

4.1. 結果的影響

日本語の「第三者の受身文」と同じように、中国語のいずれの受身文にも結果的影響が存在している。しかしながら、中国語の場合は日本語の場合より複雑である。

4.1.1. 「第三者の他動詞受身文」

日本語の場合と同様に、「第三者の他動詞受身文」の場合には、結果的影響が明示されるかどうかにかかわらず、受身文が成立する。例えば、(23)の例文は(23a)のように続く場合と(23b)のように続く場合がある。(23a)では結果的影響“从此事情就不好办(これから困る)”が明示されているのに対して、(23b)では結果的影響が省略されているが、(23a)と(23b)のどちらも「第三者の他動詞受身文」として成り立つ。

(23) 我家 主人 感到 十分 为难, 如果 拟旨准行,
wojia zhuren gandao shifen weinan, ruguo nizhizhunxing
うち 主人 感じる 非常に 困る もし 指示に従う
うちの主人は非常に困っている。もし指示に従えば、

(23a)ok. 则 让 高拱 抢 了 头功, 从此 事情
ze rang gaogong qiang le tougong, congci shiqing
それなら RANG 高拱 取る asp 功績 これから こと

就 不 好办。
jiu bu haoban
するとすぐ NEG やりやすい
高拱に功績をとられて、これから困る。

(23b)ok. 则 让 高拱 抢 了 头功。

ze rang gaogong qiang le tougong.

それなら RANG 高拱 取る asp 功績

高拱に功績をとられる。

(作例)

(24) 说起来 他 又 比 胡秉宸 差多少?

shuoqilai ta you bi hubingcheng chaduoshao

そう言えば 彼 また より 胡秉宸 劣っているのか

世事 也 不能 这样 不公平,

shishi ye buneng zheyang bugongping

世の中 も てはいけない こんな 不公平

そう言えば、彼のどこが胡秉宸より劣っているのか? 世の中こんな不公平ではいけない!

(24a)ok 让 胡秉宸 占 尽 风流!

rang hubingcheng zhan jin fengliu

RANG 胡秉宸 占める すべて いいところ

胡秉宸にいいところを全て持っていかれるなんて!

[茅盾文学賞:『无字』]

(24b)ok 让 胡秉宸 占 尽 风流,

rang hubingcheng zhan jin fengliu

RANG 胡秉宸 占める すべて いいところ

而 他 什么 都 没有。

er ta shenme dou meiyou

でも 彼 何 も ない

胡秉宸にいいところを全て持っていかれて、彼は何もないなん

て!

(作例)

(23)、(24)のような「第三者の他動詞受身文」は次の(25)の構文形式を持っている。

(25) 構文形式：



(N1=受動者、N2=動作主、他 V=他動詞、N3=対象物、R=結果的影響)

4.1.2. 「第三者の自動詞受身文」

①「第三者の自動詞受身文」：「“一” + 自 V」受身文

「第三者の自動詞受身文」の場合は、原則として結果的影響を明示しなければならない。(26)では結果的影響“我什么都看不见了(何も見えなくなってしまった)”が省略されていないので、受身文が成立するが、(27)では結果的影響が省略されているので、受身文が非文になる。

(26)

被	他	这么一	坐，
bei	ta	zhemeyi	zuo
BEI	かれ	こうして	座る

我	什么	都
wo	shenme	dou
私	何	も

看不见	了。
-----	----

kanbujian le

見えない asp

彼にこうして座られると、

何も見えなくなってしまった。

[楊 1992: 333]

(27) *

被	他	这么一	坐。
bei	ta	zhemeyi	zuo
BEI	かれ	こうして	座る

bei ta zhemeyi zuo

BEI かれ こうして 座る

*彼にこうして座られる。

(26)のような受身文には(28)の構文形式が用いられている。

(28) 構文形式：

(N1) $\left\{ \begin{array}{l} \text{被(bei)} \\ \text{叫(jiao)} \\ \text{让(rang)} \\ \text{给(gei)} \end{array} \right. \text{N2} \quad \text{一(yi)} \quad \text{自 V} \quad \text{R}$

(N1=受動者、N2=動作主、自 V=自動詞、R=結果的影響)

(26)と(27)を比べると、(26)のような受身文には結果的影響が明示されなければならないということがわかる。

また、(26)のような受身文には“一(yi)”が含まれているので、本稿ではこのような受身文を「「一」+自 V」受身文」と呼ぶ。

②「第三者の自動詞受身文」：「自 V+“得”」受身文

次の例文でも、結果的影響を明示しなければならない。(29)の例文は(29a)のように続く場合と(29b)のように続く場合がある。(29a)のように結果的影響が明示されていれば受身文として成り立ち、(29b)のように明示されていなければ成り立たない。

(29) 刘掌柜 说：“ 一定是 这 两个 贱人
liuzhanggui shuo yidingshi zhe liangge jianren
劉店主 言う きっと これ 二人 嫌な人

又 在 打架。 怪好 一个 人家，
you zai dajia guaihao yige renjia
また asp 喧嘩する こんなにいい 1つ 家族

劉店主は「あの二人、きっとまた喧嘩しているに違いありません。
こんなにいい家族は

(29a)ok 给 这 两个 贱人 闹得 天昏地暗，
gei zhe liangge jianren naode tianhundian
GEI これ 二人 嫌な人 騒ぐ DE 混乱してしまう

不得	一日	安宁！”
bude	yiri	anning
得られない	一日	平穩な日

あの二人に騒がれて混乱してしまい、平穏な一日もないんです!

[茅盾文学賞:『李自成（上）』]

(29b) *给 这 两个 贱人 闹得!”
gei zhe liangge jianren naode
GEI これ 二人 嫌な人 騒ぐ DE
あの二人に騒がれた

(29)のような受身文には(30)の構文形式が用いられている。

(30) 構文形式：

(N1) { 被(bei)
 叫(jiao)
 让(rang) N2 自 N 得(DE) N3 N
 给(gei)

(N1=受動者、N2=動作主、自 V=自動詞、N=結果的影響)

(29)のような文について、中島(2007)は、「“被”に導かれる補文の事態は結果的事態に影響をもたらす原因としての意味を担い、“得”に導かれる補語はその影響の結果の意味を担うものということになる」と述べている。本稿では“得”が用いられる「第三者の受身文」を「「自V+“得”」受身文」と呼ぶ。

③「第三者の自動詞受身文」：“逃”字自動詞受身文

ただし、“逃げる”という意味の述語動詞による受身文の場合、自動詞であっても、結果的影響は省略されてもかまわない。(31)の例文は(31a)のように続く場合と(31b)のように続く場合がある。(31a)では結果的影響は省略されており、(31b)では結果的影響“前功尽弃(以前の努力や苦労がすべてむだになる)”が明示されている。いずれの場合も「第三者の自動詞受身文」として成立する。

(31) 李自成 和 他 的 将士们 恨透 了 这个 叛徒，
lizicheng he ta de jiangshimen hentou le zhege pantu
李自成 と 彼 の 兵士たち 憎む asp こいつ 反逆者

常常 想 在战场上 捉到 他，
 changchang xiang zaizhanchangshang zhuodao ta,
 いつも 思う 戦場で 捕まえる こいつ

可是 他 比 狐狸 还 狡猾，
 keshi ta bi fuli hai jiaohua
 でも こいつ より 狐 さらに 賢い
 李自成と兵士たちはこいつをひどく憎んで、いつも戦場で捕まえ
 ようと思ったが、こいつは狐よりずる賢いから、

- (31a)ok 几次 都是 快要 捉到 时 给他 逃脱。
 jici doushi kuaiyao zhuodao shi gei ta taotuo
 何回 も もうすぐ 捕まえる 時 GEI こいつ 逃げる
 何回もこいつを捕まえようとしたが逃げられた。
 [茅盾文学賞:『李自成 (上)』]

- (31b)ok 几次 都是 快要 捉到 时 给他 逃脱，
 jici doushi kuaiyao zhuodao shi gei ta taotuo
 何回 も もうすぐ 捕まえる 時 GEI こいつ 逃げる

前功尽弃

qiangongjinqi

以前の努力や苦勞がすべてむだになる

何回もこいつを捕まえようとしたところに逃げられて、**以前の努**
力や苦勞がすべてむだになる。 (作例)

- (32) 他 越想越 感到 情况 严重，
 ta yuexiangyue gandao qingkuang yanzhong
 彼 考えば考えるほど 気がする 状況 ひどい

觉得 有 必要 向 巡捕营 报告， 让 他们
 juede you biyao xiang xunbuying baogao rang tamen
 と思う ある 必要 に 巡査 報告する RANG 彼達

派人 先 把 茶寮 里 的 那几个人 抓起来。
 pairen xian ba chaliao li de najigeren zhuaqilai
 派遣する まず BA 茶館 中 の あの人たち 捕まえる
 彼は考えれば考えるほど状況がひどい気がして、すぐ巡査に報告
 して、まず茶館の何人かを逮捕させる必要があると思った。

(32a)ok. “对, 可别 叫 他们 跑 了!”
 dui kebie jiao tamen pao le
 はい しないで JIAO やつら 逃げる asp
 「やつらに逃げられてはいけない！」と黄宗羲は思った。
 [茅盾文学賞:『白门柳』]

(32b)ok. “对, 可别 叫 他们 跑 了, 否则 后患无穷”
 dui kebie jiao tamen pao le fouze houhuanwuqiong
 はい しないで JIAO やつら 逃げる asp そうしないと
 後々の心配が絶えない
 「やつらに逃げられてはいけない！ そうしないと、後々の心配
 が絶えない」 (作例)

(31)、(32)のような受身文は(33)の構文形式を持っている。

(33) 構文形式：

(N1)	{	被(bei)	N2	自 V	{	脱(tuo)	(R)
		叫(jiao)				了(le)	
		让(rang)					
		给(gei)					

(N1=受動者、N2=動作主、自 V=“逃”の意味を表す自動詞、R=結果的影響)

このような「第三者の自動詞受身文」では“跑”、“逃脱”“走掉”などのような“逃”(逃げる)の意味を表す自動詞が述語動詞として用いられる。以下、本稿では、これらの受身文を「“逃”字自動詞受身文」と呼ぶ。

次の(34)はコーパスから見た「第三者の自動詞受身文」各例の分布を示している。

(34) 「第三者の自動詞受身文」の種類と数

「第三者の自動詞受身文」の種類	非“逃”字自動詞受身文 ¹³		“逃”字自動詞受身文
	「“一”＋自V」受身文	「自V＋“得”」受身文	
数	7	17	34
合計	24		34

中国語の「第三者の自動詞受身文」において、中日対訳コーパス、茅盾文学賞を受賞した作品と先行研究から収集した例文の構文特徴によると、“逃”という意味を表す自動詞が用いられる「第三者の受身文」は34例あり、自動詞による「第三者の受身文」の半分以上を超えているということがわかる。ほかの自動詞による「第三者の受身文」は24例に過ぎず、述語自動詞もさまざまである。

また、(34)が示すように、24例の「非“逃”字自動詞受身文」において、7例は“一(yi)”が用いられる「第三者の自動詞受身文」であり、17例は“得(de)”が用いられる「第三者の自動詞受身文」である。

従って、中国語の「第三者の自動詞受身文」が「“逃”字自動詞受身文」と「非“逃”字自動詞受身文」に大別され、また、「非“逃”字自動詞受身文」が「「“一”＋自V」受身文」と「「自V＋“得”」受身文」に細かく分類される。

4.1.3. 結果的影響と成立条件

なぜ他動詞による受身文と「“逃”字自動詞受身文」には結果的影響が明示されない受身文も存在するのか。まず、中国語の受身文と結果の関係について、杉村(2003)は次のように指摘している。

(35) 汉语被动的“被动概念”可以理解为“以受事为视角，叙述一件出乎意料地发生的事件”。

(中国語受身の「受身概念」は「受け手の視点から、ある予想に反することを述べる」と見なすことができる)

[杉村 2003: 286]

¹³ 本稿では「“逃”字自動詞受身文」以外の自動詞による「第三者の受身文」を指す。

- (36) 「被动概念和“表明动作行为的结果”常常交织在一起，共同成为被动句的语用动因。因为“出乎意料”这一被动概念的基本因素往往不是跟动作行为，而是跟动作行为的结果发生密切联系」。(受身概念は常に「動作・行為の結果」と関わりがあり、ともに受身文の語用動因になる。というのは、「予想に反する」という受身概念の基本要素は通常動作・行為と関係がなく、動作・行為の結果と深い関わりがあるからである)

[杉村 2003: 293]

つまり、中国語の受身文には結果的影響の成分の付加が求められると言える。「第三者の受身文」も受身文の一種であるため、結果的影響の成分の付加は義務的であろう。

木村(2012)でも杉村(2003)と同じ意見が見られる。

- (37) 「従来「被動文(“被动句”)」の名で呼ばれてきた“X 被 YV”の特筆すべき特徴は、主語に立つ対象 X が単に動作・行為を受けることを述べるだけでは成立し難く、X が動作・行為の結果として被る何らかの具体的な(影響)を明示する表現、もしくはそれを強く含意する表現を述語成分に要求するという点にある」

[木村 2012: 193]

木村(2012)によれば、結果が表される形式は二つあり、①「動作・行為の結果として具体的な(影響)を明示する表現」であり、②結果を「強く含意する」述語成分であることが明らかになった。言い換えれば、結果を「明示する表現」がなくても述語成分は結果さえ強く含意すれば、中国語の受身文は成立する。

- (38) 動詞によっては自らの語彙的意味として対象への影響を十分に含意し得るものもあり……結果を明示する補語成分を伴わずに受身文の述語に立つことも可能である……ただし、この場合も完了相を表す動詞接辞の“了”の存在が不可欠であり……

[木村 2012: 194]

つまり、結果的影響が明示されない場合には、動詞の語彙的意味によっ

て結果が表されているか、あるいは完了相を表す動詞接辞の“了”が存在すれば、受身文が成立する。

(23)の動詞“抢”(奪う)に“了”が付加されていることが見られる。

“了”は中国語のアスペクトマーカの一つであり、さまざまな用法がある。呂(1999)では中国語のアスペクトマーカ“了”について次のように述べている。

- (39) “了”有两个。“了1”用在动词后，主要表示动作的完成。如动词有宾语，“了1”用在宾语前。“了2”用在句末，主要肯定事态出现了变化或即将出现变化，有成句的作用。如动词有宾语，“了2”用在宾语后(“了”は2種類ある。“了1”は動詞の後ろに用い、主として動作の完了を表す。動詞が客語¹⁴をとるとき、“了1”は客語の前に置く。“了2”は文末に置き、主として事態に変化が起きたこと、あるいは今も変化が起きることを認め、文を結び働きをもつ。動詞が客語をとるとき、“了2”は客語の後ろに置く。) ¹⁵

[呂 1999: 351]

ゆえに、(32)における“了”は“了1”であり、動作の完了を表すことができるから、動作“抢”(奪う)に“了1”を付け加えることで動作完了の意味が表せるようになる。しかし(32a)に受身構文の後ろに更に結果的影響を表す部分が生じているのに対し、(32b)には「動詞+“了1”」だけによって結果的影響を表している。

(24)では動詞“占”(占める)に結果補語の“尽”が付加されることにより、動作“占”(占める)の結果が表せるようになる。

劉月華ら(2010)によれば「结果补语不仅表示动作完成，而且表示动作完成后产生了某种具体的结果」(結果補語は動作完了だけではなく、動作完了後の具体的な結果も表す)(p330)ので、他の結果を明示する表現がなくとも結果補語は既に「結果を強く含意する述語成分」となっているため、受身文の成立する条件に満たしていると言える。

(31a)においては動詞“逃”(逃げる)に結果補語の“脱(離れる)”が後接しており、(32a)において、結果的影響の意味が述語部分“跑了(逃げた)”

¹⁴ ここの「客語」は目的語を指している。

¹⁵ ここの日本語訳は呂(2003)からの引用である。

に含まれているので、他の結果を表す表現がなくても既に「結果を強く含意する述語成分」となっているため、受身文の成立する条件を満たしている。

4.2. 「第三者の受身文」の述語動詞

中国語の「第三者の受身文」において用いられる自動詞の中で最も多いのは移動動作を表す移動動詞であり、他動詞の中で最も多いのは作用の意味を表す他動詞である。

4.2.1. 自動詞

先述したように、「第三者の自動詞受身文」で最も多いのは「“逃” 字自動詞受身文」で、34 例ある。

また、次の(40)は中国語の「「一」 + 自 V」受身文」に現れる自動詞の種類を示したものである。

(40) 「「一」 + 自 V」受身文」における自動詞の使用状況

		哭 (泣く)	闹腾 (騒ぐ)	来 (来る)	站 (立つ)	坐 (座る)	哈哈 (笑う)	合計
総合 語数	延べ 語数	2	1	1	1	1	1	7
	異なり 語数	1	1	1	1	1	1	6

本稿では凌 (2005)の意味上の分類に基づき、これらの6例（異なり語数）の自動詞を次のように二種類に分ける。

I 「動作を表す自動詞」

- ①一般動作を表す自動詞：“闹腾”（騒ぐ）
- ②移動動作を表す自動詞：“来”（来る）

II 「現象を表す自動詞」

- ③状態変化を表す自動詞：“站”（立つ）、“坐”（座る）
- ④生理現象を表す自動詞：“哭”（泣く）、“哈哈”（笑う）

それから、次の(41)は「「自V＋“得”」受身文」の自動詞種類を示したものである。17例の「「自V＋“得”」受身文」の自動詞は異なり語数が少なく、5例のみある。そのうち、自動詞“哭”（泣く）がもっとも多く、10例ある。

(41) 「「自V＋“得”」受身文」における自動詞の使用状況

		哭 (泣く)	吵 (騒ぐ/喧嘩する)	闹 (騒ぐ)	咳嗽 (せきをする)	走 (歩く)	合計
総合 語数	延べ語数	10	3	2	1	1	17
	異なり 語数	1	1	1	1	1	5

意味の特徴から、「「自V＋“得”」受身文」に用いられるこの5例（異なり語数）の自動詞は次のように二種類に分けられる。

I 「動作を表す自動詞」

- ①一般動作を表す自動詞：“吵”（騒ぐ/喧嘩する）、“闹”（騒ぐ）
- ②移動動作を表す自動詞：“走”（走る）

II 「現象を表す自動詞」

生理現象を表す自動詞：“哭”（泣く）、“咳嗽”（咳をする）

さらに、(42)からわかるように、中国語の「第三者の受身文」の自動詞のうち移動動詞が占める割合は、50%を超えており、中国語の「第三者の受身文」になれる自動詞のうちで最も大きな比率を占めている。

(42)中国語「第三者の受身文」における自動詞の比率

自動詞	例数	比率
移動動作を表す自動詞 (走、来、跑掉、逃走、跑、溜走、逃脱、走掉、逃掉、 走脱、逃跑)	36	62.07%
生理現象を表す自動詞 (哭、哈哈、咳嗽)	14	24.14%
一般動作を表す自動詞 (吵、闹、闹腾)	6	10.34%
状態変化を表す自動詞 (站、坐)	2	3.45%
その他	0	0

本節で考察した結果は次の(43)にまとめられる。(43)が示しているように、動詞の意味特徴から見れば、日本語の「第三者の受身文」において、自動詞はいずれも「一般的な動作を表す自動詞」、「現象を表す自動詞」と「態度・感情を表す自動詞」の三種類に分けられる。それに対し、中国語の「第三者の受身文」において、自動詞は主に「一般的な動作を表す自動詞」と「現象を表す自動詞」の二種類に分類される。しかしながら、日本語と中国語のどちらにおいても、最も多いのは「逃げる」- “逃・跑”、「来る」- “来” などのような移動動作を表す移動動詞である。

(43)中日両言語における「第三者の受身文」の自動詞の意味分類

自動詞の意味		日本語	中国語
動作 を表 す	一般的 な動作	騒ぐ、騒ぎ立てる、 祟る	吵、闹、闹腾
	移動動作	逃げる、来る、行く、 やって来る、登る、去る	走、来、跑掉、逃走、跑、溜走、 逃脱、走掉、逃掉、走脱、逃跑
現象 を表 す	存在	いる	なし
	自然現象	射る、降る	なし
	生理現象	死ぬ、先立つ	哭、哈哈、咳嗽
	状態変化	なる	站、坐
態度・感情を表す		怒る、飽く、輾磨する	なし

4.2.2. 他動詞

(44)では中国語の「第三者の受身文」における他動詞の使用状況を示している。(44)からわかるように、「第三者の他動詞受身文」における動詞

の延べ語数が最も多いのは“占”（占有する）の意味を表すものであり、他動詞“钻”（つけ込む）の数は“占”（占有する）に次ぎ第2位になっている。いずれにしても、これらの他動詞は主に「占有する」や「奪う」などという作用の意味を表す。

(44)中国語「第三者の受身文」における他動詞の使用状況

		占 ¹⁶ (占有する)	抢 (奪う)	钻 (つけ込む)	做 (や る)、斟满 (注ぐ)	合 計
総合 語数	延べ語数	7	5	6	2	20
	異なり語数	1	1	1	1	4

以上のことから、中国語の「第三者の受身文」に用いられる他動詞の数は非常に少なく、その中で最も多いのは「作用の意味を表す他動詞」であることが分かる。

5. まとめ

本稿では結果的影響と述語動詞の観点から、「第三者の受身文」について中国語と日本語の対照研究を行った。

結果的影響の使用状況と現れ方に関しては、日本語であれ中国語であれ、いずれの受身文にも結果的影響が存在している。日本語では、結果的影響が明示される場合もあり、明示されない場合もある。それに対し、中国語の「“逃”字自動詞受身文」においては、述語動詞に完了相を表す“了”があるか、あるいは「結果補語」が伴えば、結果が強く含意されるので、結果的影響の明示が必要ではない。しかし、中国語の「“一”＋自V」受身文と「自V＋“得”」受身文においては、述語動詞には“了”も結果補語も付けられないため結果的影響を明示するものが必要である。

述語動詞から見れば、日本語か中国語かを問わず「第三者の受身文」の自動詞はいずれも「一般的な動作を表す自動詞」、「現象を表す自動詞」と「態度・感情を表す自動詞」の三種類に分けられる。最も多く用いられるのは「逃げる」－“跑”、「来る」－“来”などのような移動動作の意味を表す移動動詞である。それに対し、他動詞による「第三者の受身文」に

¹⁶ “独占” “占领” “垄断” など“占”の意味を表す動詞も含まれている。

においては、日本語の他動詞はそのほとんどが「第三者の受身文」の述語動詞として用いられるが、中国語では極少数の限られた他動詞だけが「第三者の受身文」の述語動詞として用いることができる。また、中国語の他動詞は主に「占有する」や「奪う」などといった作用の意味を表すものである。

本稿で考察した結果は次の(45)と(46)にまとめられる。現時点では「第三者の受身文」の現象を記述することにとどまる。今後は統語論などの観点からこれらの現象が発生する原因を明らかにしたい。

(45) 両言語における「第三者の受身文」の結果的影響の共通点と相違点

相違点			共通点
結果的影響の使用	日本語	基本的に明示する必要はないが、明示する場合もある： 「V（ら）れ＋ては／ても＋結果的影響を表す節」 「V（ら）れ＋たら／と＋結果的影響を表す節」	どちらも結果的影響が必要である
	中国語	①明示する必要のない場合： “逃”字自動詞受身文、他動詞受身文 ②明示する必要のある場合： 「一」＋自V」受身文、「自V＋“得”」受身文	

(46) 両言語における「第三者の受身文」の述語動詞の共通点と相違点

			相違点	共通点
述語動詞	自動詞	日本語	基本的に「一般的な動作を表す自動詞」、「現象を表す自動詞」、「態度・感情を表す自動詞」が使用される	「逃げる」-“跑”、“来る”-“来”など移動動作を表す移動動詞が最も多い
		中国語	「一般的な動作を表す自動詞」、「現象を表す自動詞」のみ	
	他動詞	日本語	「作用を表す他動詞」が最も多い 「位置変化を表す他動詞」もある	①数が少ない ②「作用を表す他動詞」が最も多い
		中国語	主には「占有する」や「奪う」という作用を表すものである	

謝辞

本稿の執筆にあたり、二名の匿名査読者の方々より、内容から書式に至るまで大変丁寧なコメント、ご指摘をいただき、心よりお礼申し上げます。無論、本論文における不備の責任はすべて著者にある。

参考文献

- 王曙光(1985). 「日汉间接被动句之我见——兼与韩基国同志商榷（日本語訳：日本語と中国語間接受身文に関する自分の考え——韓基国様と検討する）」. 『日语学习与研究(日本語訳：日本語学習と研究)』. 第1期, 30-32.
- 木村英樹(2012). 『中国語文法の意味とカタチ——「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究——』. 東京：白帝社.
- 朱德熙(1999). 『朱德熙文集(一)』. 北京：商務印書館.
- 杉村博文(2013). 「从日语的角度看汉语被动句的特点（漢語受身文の特徴：日本語の角度から）」. 『语言文字应用(日本語訳：言語文字応用)』. 第2期, 64 - 75.
- 中島悦子(2007). 『日中対照研究 ヴォイス——自・他の対応・受身・使役・可能・自発——』. 東京：おうふう.
- 北京日本学研究中心(2002). 「中日対訳コーパス」.
- 劉月華・潘文娛・故韡(2010). 『实用现代汉语语法(日本語訳：現代中国語文法総覧)』. 北京：商務印書館.
- 呂叔湘(1999). 『现代汉语八百词（増訂本）（日本語訳：中国語文法用例辞典——《現代漢語八百詞増訂本》日本語版）』. 北京：商務印書館.
- 凌蓉(2005). 「关于日语被动句和汉语“被”字句的对比研究（日本語受身文と漢語“被”構文についての対照研究）」. 上海外国語大学博士論文.
- 路浩宇(2013). 「中国語の自動詞述語受身表現について：インターネットで用いられる“被就业”のタイプを例として」NU ideas 2(1). 22-31. 名古屋大学教養教育院.
- 楊凱榮(1992). 「文法の対照的研究——中国語と日本語」. 『日本語と日本語教育』第5巻, 312-340. 東京：明治書院.

A Contrastive Study of Indirect Passives in Chinese and Japanese:
The Case of Predicates and Resultative Influence

Luqin Chen
(Kyushu University)

This study aims at investigating the similarities and differences between predicates and resultative influence of Indirect Passives in Chinese and Japanese. To be more precise, although there is resultative influence in Indirect Passives in both of them, resultative influence in Chinese is more complicated than that in Japanese. In the case of predicates, both Chinese and Japanese intransitive verbs can be divided into three groups: verbs describing general actions, verbs describing phenomena and verbs describing attitude or emotion. Moreover, almost all the transitive verbs describe the influence on themes. However, most of transitive verbs in Japanese can be used in Indirect Passives, while transitive verbs that can be used in Indirect Passives are restricted in Chinese.

(初稿受理日 2015 年 4 月 30 日 最終稿受理日 2015 年 12 月 25 日)